

《 来賓挨拶 》



■国土交通省大臣官房技術参事官 遠藤 仁彦

只今、ご紹介頂きました、遠藤でございます。

まずは、この「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の先程、総会が滞りなく終わったという話を聞いてございまして、あとはこのシンポジウム、交流会が開催されますことをまずは、心よりお慶び申し上げたいと思います。また、一般市民の方々も含めまして、本日のシンポジウムにご参加の皆様方におかれましては、常日頃は土木行政様々な課題がございますが、様々な立場でご理解とご協力を頂いておりますことをこの場をお借りして、お礼を申し上げたいと思います。

さて、「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」平成7年から長い歴史の中で取り組みが進められていますが、ここ2年間は新型コロナウイルスの影響によりまして、WEBでの開催であるとか、書面開催であるとか、中々リアルで交流することができないというような、非常にもどかしい2年間だったかなというふうに思います。それが晴れてこのように、ちゃんと集まって皆様の顔を見ることが出来て、本当に嬉しい限りかなと思います。

先程、市長からご紹介頂きましたように、シンポジウムのテーマを非常に旬な2つのテーマでありまして、そのテーマに関してクルーズの関係の動きを若干、ふれさせていただきますと、世界の国際クルーズはかなり先行的に、ヨーロッパないしアメリカの方が結構早めに再開をされていまして、現時点で再開をしていないのは東アジア、日本を含めて東

アジアに限っています。アジアの中ではマレーシア、シンガポールはもうすでに再開を果たしているというような状況の中で、ちょうど先週の月曜日、9月の26日水際対策の大幅な緩和方針が出されました。その中でいくつか入国者の操業規制を設けないという、いろんな見直しがあるんですけども、その中のひとつに空港と海の港、港湾のみならず、漁港もあるからだろうと思いますけども、空港と海の港における国際線の受け入れの再開というのが項目として出てくるはず。国際線というのは、定期線の航空路とか定期航路だけではなくて、クルーズも含まさった今回概念で打ち出しをされておまして、どうゆうことが書かれているかと申しますと、現在、国際線を受け入れていない港湾空港、海の港について、今後の出港予定のうち地方公共団体等の協力を得つつ個別、港ごとに受け入れにかかる準備を進め、これが整い次第、順次、国際線の受け入れを再開する、というふうに書かれています。先程おっしゃいましたように、国際線とは国際クルーズを含まさった概念であります。したがって、ようやく9月の末に日本も国際クルーズの再開をしようというような、そういう整理がされたということでもあります。一方、明日からできる状況にあるかということ、実はまだ若干の課題が残っておりまして色んな検疫の関係も含めてですね、私ども国交省港湾局としても、水際関係省庁と再開に向けた協議を今、精力的に進めております。実際に運用ルールとして、今の現時点の運用のままいくと、かなり難しい。先程、再開のそういう9月26日の打ち出しがありましたけど、現在の運用ルールでいくと、かなりちょっとハードルが高いというような実態面の課題が実はございまして、そこを何とかクリアしようと今、動きが出しているという状況であります。現に今週の月曜日にも、わたくしども、日本海側のとある県知事さんから外航クルーズの再開についての要望、ご要望を直接頂きました。その中で国土交通省のみならず、厚労省さんの要望に似ているというような形もございまして、色んな関係者含めて結局、現実的な対応の中で運行が再開できるように、というような形の動きがまさに今、ING（アイエヌジー）で進んで、進みつつあると、そういうような状況でございまして、という、ちょっと最新の情報をお伝えさせていただきました。

今後、ネットワークがコロナ禍を乗り越えて一步一步、交流が更に進化をしていくという事を期待したいと思っておりますし、そのまず第一歩がこの稚内のシンポジウムだろうというふうに思いますので、これからも深く内容も本当に期待をして聞かせていただけたと思います。

本日はありがとうございました。